

グローバル人材育成プログラム に参加して

堤 冬美花
Fumika TSUTSUMI
物質化学科 3年

1. はじめに

私は8月16日から9月2日の18日間、アメリカのサンフランシスコおよびサンノゼで行われたグローバル人材育成プログラムに参加した。到着後2日間はシリコンバレーの様々な企業を見学し、その後2週間のホームステイと10日間のインターンシップを行った。

2. 参加目的

私は将来海外で働ける人材になりたいと思っている。そのためには、大学生のうちに海外の文化や価値観を知り、海外で働く経験が必要だと思った。昨年度受講した、ASEAN グローバルプログラムでは、様々な価値観や文化を学ぶことが出来たため、今年度はそこからレベルアップをして、世界での仕事に対する考え方や取り組み方を学びたいと思った。

3. 企業見学

初日には、フィットネス用のウェアラブルデバイスを開発、販売している fitbit 社に訪問した。会社の方にお話をいただき、シリコンバレーは、たくさんの情報と優秀な人材が集まってくる場所だということを知った。データベース管理システムを扱う Oracle 社では、シリコンバレーならではの働き方を学んだ。各国から来た優秀な人材が数多くいるため、働き方にもたくさんの自由があることを知った。しかしその反面、徹底した実力主義であり、会社から必要とされなければクビになることもあると聞いた。どんな働き方にもメリットとデメリットの両方が存在する事を知った。どのような働き方を

選択するかは自分次第だが、メリットとデメリットの両面について知っておく必要があると思った。

4. スタンフォード大学訪問

スタンフォード大学では、デザイン思考教室の見学後、現地学生との交流を行った。現地学生との交流を通じて一番感じたのは、生徒一人一人が自分の意見をはっきりと述べるができる点だと思う。昨年度のベトナム人学生との交流でも同じことを感じた。担当して頂いた学生は、自分の意見を言う際に配慮がないのではなく、意見の一つ一つにしっかりと理由をもって話すことのできる方で、とても素晴らしいと感じた。私は普段の生活でも思っていることを口に出すのが難しい場面がよくあるが、自ら発言する自信を持つことの大切さを学んだ。

5. 講演会

山田理さんの講演会では、新しい時代の働き方について学んだ。共感でお金が動く時代だからこそ共感できる環境に身を置くことが大切だと感じた。また、日本でも終身雇用という考え方が薄くなってきている今の時代の働き方について考えることが、とても大切だと学んだ。

6. ホームステイ

2週間のホームステイでは、フィリピン人のマリールーさん一家にお世話になった。ホームステイ先に到着して最初に感じたのは、ホストマザーの話している英語がまったく聞き取れないという事だ。今まで聞いたことのない、訛りとスピードで話される英語は、難しく感じた。また、アメリカと日本の文化の違いも感じた。水道代が高いためお風呂に入らないとは聞いていたが、実際生活してみるととてもきつく感じた。日本との住環境の違いを身を以て体感することができた。

7. インターンシップ

今回、私は千住金属工業（通称 SMIC）の海外拠

点である、Senju Comtek corpにお世話になった。こちらの会社では、半田材料やFA装置など半導体や電子部品に関わる製品を製作しており、その中でも“ソルダーペースト”と呼ばれる製品を扱う、サンノゼ工場およびサンタクララ本社に訪問させていただいた。実習では、ソルダーペーストの製造から出荷までの業務とラボワークを体験させて頂いた。日程ごとの実習内容を表1に示した。

表1 インターンシップの実習内容

日程	午前	午後
1日目	オリエンテーション	製造
2日目-3日目	製造	製造
4日目-6日目	品質管理	品質管理
7日目	梱包	梱包
8日目	梱包	運搬
9日目	ラボワーク	本社訪問
10日目	レポート作成	プレゼンテーション

オリエンテーションでは、工場を案内していただき安全管理の方法や各工程の大まかな業務、仕事の流れを教えて頂いた。製造工程では、クリーンルームと呼ばれるホコリや塵が入らない条件下で、原料から製品を製造する工程を行った。実際に製品が製造される過程を体感することは、初めてだったのでとても面白かった。品質管理工程では、とても多くの検査項目を同時に、かつ受注先が求める方法で検査しているところを知り、とても驚いた。さらに、検査結果が間違っていないことを証明するためにチェックシートを用いて、何度も確認する工程があることも知った。毎日、同じ検査項目の繰り返しだが、商品の品質が会社の利益にも反映されるため、大切な仕事だと感じた。また、検査項目の中には、普段勉強している化学が用いられた検査もあり、日常生活と化学の結びつきを感じた。さらに、梱包や運搬業務では、毎回製品の確認が行われていた。運搬

途中でトラブルがあっても対応できるように対策を行っていることも学んだ。商品が受注先に届かないことがないように、万全の対策が取られていることを知った。ラボワークでは、種類の異なる2種類のフラックスの水溶性の違いを電子顕微鏡を用いて観察した。最終日に行ったプレゼンテーションでは、英語でインターンシップで学んだことを従業員の方の前で発表した。原稿が表示されないトラブルが起こり、とっさに英語を話す環境になったこともあり、プレゼンテーションはひどい出来であった。今後社会に出る上で、焦った時に対処する術を身につける必要があると感じた。

実習中には、職場の方とお話しする機会が多かった。初めはゆっくり話して頂かないと聞き取れないことも多かったが、日にちが経つにつれて聞き取れるようになっていく変化もあり、とても有意義な経験だった。お昼ご飯の時間には、職場の方とご飯を食べる機会が多く、アメリカならではの文化を体感しながら、日本との働き方の違いなどを教えて頂いた。

今回のインターンシップでは、毎日新しい経験をさせて頂き、有意義な時間を過ごすことができた。悩むことも多かったが、自ら行動することでたくさんの方に支えて頂いた。

8. おわりに

私が今回の研修で一番感じたのは、自ら行動することの大切さだ。今回の研修では、自ら行動しなければ始まらない環境にいることが多かった。インターンシップ初日には、会社の場所がわからず迷子になったが、道を聞くことで会社まで連れて行ってもらったこともある。自ら行動することで、たくさんの方を教えて頂き、学ぶことができた。この経験を生かして、自ら行動できる機会を無駄にしないこと肝に命じておこうと思った。